

#3  
9-8-03  
B. Hilliard

Docket No. 1614.1144/HJS

**IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE**

In re Application of:

Takeshi KUMAZAWA et al.

Group Art Unit:

Serial No.:

Examiner:

Filed: March 21, 2001

For: ACCESS INDUCING METHOD AND APPARATUS AND STORAGE  
MEDIUM



**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR  
FOREIGN APPLICATION IN ACCORDANCE WITH  
THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. § 1.55**

Assistant Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. § 1.55, the applicant(s) submit(s)  
herewith a certified copy of the following foreign application(s):

Japanese Patent Application No. 2000-323045  
Filed: October 23, 2000

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing  
date, as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements  
of 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,  
STAAS & HALSEY LLP

Date: March 21, 2001

By: \_\_\_\_\_

H. J. Staas

Registration No. 22,010

700 Eleventh Street, N.W.  
Suite 500  
Washington, D.C. 20001  
Telephone: (202) 434-1500  
Facsimile: (202) 434-1501

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

2000年10月23日

出願番号  
Application Number:

特願2000-323045

出願人  
Applicant(s):

富士通株式会社

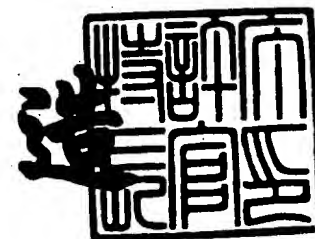
11000 U.S. PRO  
09/812824  
03/21/01

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年 2月23日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 0051573

【提出日】 平成12年10月23日

【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿

【国際特許分類】 G06F 17/60  
G06F 15/00  
G06F 13/00

【発明の名称】 アクセス誘導方法及び装置並びに記憶媒体

【請求項の数】 7

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

【氏名】 熊沢 剛

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

【氏名】 齋藤 能里子

【特許出願人】

【識別番号】 000005223

【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

【識別番号】 100070150

【住所又は居所】 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー32階

【弁理士】

【氏名又は名称】 伊東 忠彦

【電話番号】 03-5424-2511

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 002989

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704678

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 アクセス誘導方法及び装置並びに記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を基準として、所定条件が満足されると、該ユーザを該ホームページに誘導する情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行うステップを含むことを特徴とする、アクセス誘導方法。

【請求項 2】 前記情報は、前記時点以降の前記ホームページの更新情報を含むことを特徴とする、請求項 1 記載のアクセス誘導方法。

【請求項 3】 前記所定条件は、前記時点からの所定時間の経過であることを特徴とする、請求項 1 又は請求項 2 記載のアクセス誘導方法。

【請求項 4】 ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を記録する第 1 の記録手段と、

該ユーザを該ホームページに誘導する情報を作成する作成手段と、

該時点基準として、所定条件が満足されると、該情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行う通知手段とを備えたことを特徴とする、アクセス誘導装置。

【請求項 5】 前記作成手段は、前記時点以降の前記ホームページの更新情報を含む情報を作成することを特徴とする、請求項 4 記載のアクセス誘導装置。

【請求項 6】 前記所定条件は、前記時点からの所定時間の経過であることを特徴とする、請求項 4 又は請求項 5 記載のアクセス誘導装置。

【請求項 7】 コンピュータに、ユーザをホームページへ誘導する処理を行わせるプログラムを格納したコンピュータ読み取り可能な記憶媒体であって、

コンピュータに、ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を記録させる第 1 の記録手順と、

コンピュータに、該ユーザを該ホームページに誘導する情報を作成させる作成手順と、

コンピュータに、該時点基準として、所定条件が満足されると、該情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行わせる通知手順とを含むことを特徴とする、記憶媒体。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

## 【発明の属する技術分野】

本発明は、アクセス誘導方法及び装置並びに記憶媒体に関し、特にインターネット等のネットワークを介してアクセスされたホームページ情報の再アクセスを誘導するためのアクセス誘導方法及び装置、並びにコンピュータにそのようなアクセス誘導を行わせるプログラムを格納したコンピュータ読み取り可能な記憶媒体に関する。

## 【0002】

近年、パーソナルコンピュータや、多機能を有する携帯電話を含む携帯型情報端末等の普及に伴い、インターネットの利用が増大している。インターネットの代表的な利用方法として、ホームページをアクセスして所望のホームページ情報を検索、閲覧、記録することが挙げられる。

## 【0003】

## 【従来の技術】

従来、ホームページ情報は、ホームページの所有者又は管理者（以下、ホームページ提供者と言う）により、特定の場所（URL）にホームページを開設することで、ユーザに提供する形式を取っている。ユーザは、ホームページをアクセスして、所望のホームページ情報をアクセスすることができる。しかし、ホームページ提供者は、ユーザ側からの要求があった場合に初めてホームページ情報を提供する受身の体制にあり、ホームページ提供者側からホームページをアクセスしたことのあるユーザにホームページのアクセスを促すようなことはできない。このため、ホームページの広告や更新内容の連絡を行うには、所定の名簿に基づいてダイレクトメールを郵送することになり、例えばホームページをアクセスしたことのあるユーザのみに効率的に連絡することは不可能である。

## 【0004】

他方、ユーザ側からすると、一度アクセスしたホームページであっても、アクセスしたホームページをいつまでも記録しているとは限らず、再度アクセスしようと思っても、ホームページアドレスを忘れてしまったりすることもある。又、

ユーザ側で、アクセスしたホームページ情報を記録しておいても、ホームページが更新されていれば、ユーザは再度同じホームページをアクセスして、最新のホームページ情報を入手する必要がある。しかし、ユーザ側では、ホームページを再度アクセスしない限り、ホームページが更新されているか否かを知ることができない。

【 0 0 0 5 】

ホームページによっては、ホームページの特定の情報にアクセスする際に、ユーザを特定する情報の入力进行要するものもある。この場合、ユーザは、ユーザIDやパスワードを入力することで、ホームページの特定の情報にアクセス可能となる。この場合、ホームページ提供者は、特定のホームページ情報をアクセスしたユーザを知ることができるので、ダイレクトメールを郵送することで、これらのユーザにホームページの広告等を送ることができる。従って、このようなダイレクトメールを受け取ったユーザは、ホームページアドレスを忘れていても知ることができると共に、ホームページ情報の更新の有無をも知ることができる。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

従来は、ホームページ提供者側からすると、ホームページをアクセスしたことのあるユーザに対して、積極的、且つ、効率的にホームページの広告や更新内容の連絡をすることができないという問題があった。

【 0 0 0 7 】

又、ユーザ側からすると、アクセスしたことのあるホームページを再度アクセスしようとしても、ホームページアドレスを忘れてしまったりすると、再度アクセスすることはできないという問題があった。ユーザ側で、アクセスしたホームページ情報を記録しておくこともできるが、ユーザは記録に伴う各種操作を行う必要があり、面倒である。更に、アクセスしたホームページ情報を記録しておいても、ホームページが更新されていれば、ユーザは再度同じホームページをアクセスして、最新のホームページ情報を入手する必要があるが、ユーザ側では、ホームページを再度アクセスしない限り、ホームページが更新されているか否かを知ることができないという問題もあった。

## 【 0 0 0 8 】

このように、従来は、ホームページ提供者側からユーザに対してホームページ情報の再アクセスを効率的に誘導することができず、ユーザ側からはアクセスしたことのあるホームページに関する情報や更新内容等を意識せずに入手することができず、ホームページ情報提供サービスを向上することは難しいという問題があった。

## 【 0 0 0 9 】

そこで、本発明は、ホームページ提供者側からユーザに対してホームページ情報の再アクセスを効率的に誘導することができ、且つ、ユーザ側からはアクセスしたことのあるホームページに関する情報や更新内容等を意識せずに入手することができ、その結果ホームページ情報提供サービスを向上することが可能なアクセス誘導方法及び装置並びに記憶媒体を提供することを目的とする。

## 【 0 0 1 0 】

## 【課題を解決するための手段】

上記課題は、ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を基準として、所定条件が満足されると、該ユーザを該ホームページに誘導する情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行うステップを含むことを特徴とするアクセス誘導方法によって達成できる。

## 【 0 0 1 1 】

上記課題は、ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を記録する第1の記録手段と、該ユーザを該ホームページに誘導する情報を作成する作成手段と、該時点基準として、所定条件が満足されると、該情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行う通知手段とを備えたことを特徴とするアクセス誘導装置によっても達成できる。

## 【 0 0 1 2 】

上記課題は、コンピュータに、ユーザをホームページへ誘導する処理を行わせるプログラムを格納したコンピュータ読み取り可能な記憶媒体であって、コンピュータに、ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を記録させる第1の記録手順と、コンピュータに、該ユーザを該ホームページに誘導する情報を作成



させる作成手順と、コンピュータに、該時点基準として、所定条件が満足されると、該情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行わせる通知手順とを含むことを特徴とする記憶媒体によっても達成できる。

## 【 0 0 1 3 】

従って、本発明によれば、ホームページ提供者側からユーザに対してホームページ情報の再アクセスを効率的に誘導することができ、且つ、ユーザ側からはアクセスしたことのあるホームページに関する情報や更新内容等を意識せずに入手することができ、その結果ホームページ情報提供サービスを向上することが可能なアクセス誘導方法及び装置並びに記憶媒体を実現できる。

## 【 0 0 1 4 】

## 【発明の実施の形態】

本発明になるアクセス誘導方法及び装置並びに記憶媒体の各実施例を、以下に図面と共に説明する。

## 【 0 0 1 5 】

## 【実施例】

先ず、本発明の動作原理を説明する。図 1 は、本発明の動作原理を説明するための図である。同図中、ユーザ 1 0 は、情報端末 1 からインターネット等のネットワーク 2 を介してサーバシステム 3 をアクセス可能である。サーバシステム 3 は、周知の構成のウェブサーバからなり、ホームページ（コンテンツ） 4、ユーザのアクセス記録データ群を含むデータベース 5 及びユーザのアクセス状況チェックプログラム 6 を含む。基本的な動作は、以下のステップ①～⑤からなる。

## 【 0 0 1 6 】

ステップ①： ユーザ 1 0 は、ネットワーク 2 を介してサーバシステム 3 をアクセスして、所望のホームページ 4 をアクセスする。このホームページ 4 の所望のコンテンツは、例えばユーザ 1 0 のユーザ ID とパスワードを入力することで許可される。又、ユーザ 1 0 は、電子メールアドレスやファックス番号等の入力も促され、これらのユーザ情報（データ）を入力する。

## 【 0 0 1 7 】

ステップ②： サーバシステム 3 では、ユーザ 1 0 によるホームページ 4 のア

クセスに関する情報（アクセス記録）を、アクセス記録データ群としてデータベース5保持する。アクセス記録には、例えばユーザID、最終アクセス日時が含まれる。尚、最終アクセス日時は、例えばアクセスされたホームページ4のトップページが最後にアクセスされた時点とする。又、ユーザID、電子メールアドレスやファックス（FAX）番号等も、ユーザデータとしてデータベース5に保持される。

## 【0018】

ステップ③： サーバシステム3では、アクセス状況チェックプログラム6により、データベース5内のアクセス記録データ群を参照することで、特定ユーザのホームページ4へのアクセス状況を定期的に調べ、所定条件を満足するか否かをチェックする。ここで、所定条件とは、例えば最終アクセス日時から所定日数が経過した場合を言う。つまり、 $\{ ( \text{現在の日時} ) - ( \text{最終アクセス日時} ) \} \geq ( \text{所定日数} )$ であるか否かをチェックする。又、所定条件に、ホームページ4がアクセスされた回数（アクセス頻度）や、ホームページ4のアクセスされたページ数等を更に含めても良い。

## 【0019】

ステップ④： サーバシステム3では、アクセス状況チェックプログラム6により所定条件を満足していることが検出されると、アクセス記録データ群に含まれる特定ユーザのユーザIDをキーとして用いて、データベース5からこの特定ユーザのユーザデータを取り出す。取り出されるユーザデータは、例えば特性ユーザの電子メールアドレスやFAX番号である。

## 【0020】

ステップ⑤： サーバシステム3では、アクセス状況チェックプログラム6により、特定ユーザにホームページ4の広告や更新内容を通知することで、ホームページ4のホームページ情報の再アクセスを誘導する。従って、特性ユーザがユーザ10であれば、取り出されたユーザデータに基いて、電子メールやFAX等の通信手段でユーザ10へ通知をする。通知内容は特に限定されないが、ホームページ4のホームページアドレスや、更新内容等を含むことが望ましく、特に、更新内容を含むページのアドレスを含むことが望ましい。

## 【 0 0 2 1 】

従って、サーバシステム 3 側、即ち、ホームページ提供者 3 側から、ユーザ 1 0 に対してホームページ 4 のホームページ情報の再アクセスを効率的に誘導することができ、且つ、ユーザ 1 0 側からはアクセスしたことのあるホームページ 4 に関する情報や更新内容等を意識せずに入手することができ、その結果ホームページ情報提供サービスを向上することが可能となる。

## 【 0 0 2 2 】

次に、本発明になるアクセス誘導装置の一実施例を説明する。アクセス誘導装置の本実施例は、本発明になるアクセス誘導方法の一実施例及び本発明になる記憶媒体の一実施例を採用する。

## 【 0 0 2 3 】

図 2 は、本発明になるアクセス誘導装置の一実施例を示すブロック図である。同図中、サーバシステムは、大略サーバ 1 1 と、外部記憶装置 1 2 と、入力装置 1 3 とからなる。サーバ 1 1 は、周知のハードウェア構成のコンピュータからなり、表示装置や記憶部等を含む。記憶部は、磁気ディスク、光磁気ディスク、光ディスク、半導体メモリ等で構成される。記憶媒体の本実施例は、サーバ 1 1 を構成するコンピュータに、アクセス誘導方法の本実施例によりアクセス誘導を行わせるプログラムを格納した記録媒体からなり、記憶部を構成するものであっても、周知の通信手段によりコンピュータにダウンロードされて記憶部に格納されても良い。外部記憶装置 1 2 は、図 1 に示すデータベース 5 を構成可能な、周知のハードウェア構成の記憶手段からなり、ホームページ 4 に関するデータ、ユーザデータやアクセス記録データ等を記憶する。入力装置 1 3 は、キーボードやマウス等からなる。

## 【 0 0 2 4 】

サーバシステムのサーバ 1 1 は、インターネット等のネットワーク 1 4 を介してクライアントシステムと通信可能である。クライアントシステムは、大略クライアント装置 1 5 と、外部記憶装置 1 6 と、入力装置 1 7 とからなる。クライアント装置 1 5 は、周知のハードウェア構成のコンピュータからなり、表示装置や記憶部等を含む。クライアントシステムのハードウェア構成は、基本的にはサー

バシステムと同様のものを使用可能であるが、クライアント装置 1 5 内の記憶部の容量が比較的大きければ、外部記憶装置 1 6 は必ずしも必要ではない。

【 0 0 2 5 】

尚、クライアントシステムには、パーソナルコンピュータや電子メール機能を有する電話機や情報端末を使用可能であり、デスクトップ型であっても、携帯型であっても良い。

【 0 0 2 6 】

図 3 は、サーバ 1 1 の構成を示す機能ブロック図である。同図に示すように、サーバ 1 1 は、大略外部記憶装置（データベース）連携制御部 2 1、時間制御部 2 2、情報比較処理部 2 3、通知手段制御部 2 4、ホームページ管理制御部 2 5 及び通知処理部 2 6 からなる。外部記憶装置連携制御部 2 1 は、外部記憶装置 1 をアクセスして行う各種処理の制御を司り、後述する如く、新規ユーザの登録や、サーバ 1 1 が提供しているホームページ情報をアクセスしようとするユーザの認証等の処理に伴う制御等を行う。時間制御部 2 2 は、図 1 に示すアクセス状況チェックプログラム 6 に含まれ、各種時間情報を管理して制御する。時間制御部 2 2 において、ホームページ 4 がアクセスされた回数（アクセス頻度）や、ホームページ 4 のアクセスされたページ数等を管理しても良い。情報比較処理部 2 3 は、外部記憶装置 1 2 に記録されている特定のユーザのアクセス記録データと、最新のホームページ情報とを比較して、特定ユーザが最後にアクセスした後のホームページ 4 の更新内容等を判別する。

【 0 0 2 7 】

通知手段制御部 2 4 は、特定ユーザにホームページ 4 の広告や更新内容を通知するタイミングや通知方法を、時間制御部 2 2 の制御下や外部記憶装置連携制御部 2 1 の制御下で外部記憶装置 1 2 から得られるユーザデータ等に基づいて決定し、通知処理部 2 6 を制御する。通知処理部 2 6 は、情報比較処理部 2 3 の判別結果に基づいて外部記憶装置連携制御部 2 1 が外部記憶装置 1 2 から得られるデータを加工した結果、即ち、ホームページ 4 の広告や更新内容を、通知手段制御部 2 4 で決定された通知タイミングや通知方法で特定のユーザに通知する。ホームページ管理制御部 2 5 は、外部記憶装置 1 2 に記憶されているホームページ 4 に関

するデータの管理を司る。

【 0 0 2 8 】

次に、新規ユーザ登録処理を、図4と共に説明する。図4は、新規ユーザ登録処理を説明するフローチャートであり、サーバ11により実行される。新規ユーザ登録処理は、例えば未登録のユーザがアクセスしたホームページ4のトップページ以外のページをアクセスする際や、トップページ以外の特定のページをアクセスする際に行われる。ページへのアクセスを許可する際にサーバ11で行われるユーザの認証は、ユーザが入力するユーザ名（ユーザID）及びパスワード等に基づいて行い、サーバ11が要求するユーザデータがユーザから登録されて、初めてこのページへのアクセスが可能となる。

【 0 0 2 9 】

図4において、ステップS1は、ホームページ4にアクセスしているユーザが登録済のユーザであるか否かをユーザの入力装置17からの入力に基づいて判定し、判定結果がYESであれば、処理は終了する。ステップS1の判定結果がNOであると、ステップS2は、ユーザを新規に登録するか否かをユーザの入力装置17からの入力に基づいて判定し、判定結果がNOであれば、処理は終了する。ステップS2の判定結果がYESであると、ステップS3は、ユーザに個人情報の登録を促し、ユーザの入力装置17からの入力に基づいてユーザの個人情報を登録する。又、ステップS4は、ユーザに通知先情報の登録を促し、ユーザの入力装置17からの入力に基づいて通知先情報を登録する。ステップS3及びS4で登録される情報は、ユーザデータとして外部記憶装置12に記憶される。

【 0 0 3 0 】

図5は、サーバシステムで管理されるユーザデータを説明する図である。項目番号1～4の個人情報、即ち、氏名、ユーザ名（ユーザID）、パスワード及び電子メールアドレスは、ステップS3で登録される個人情報であり、登録が必須である。又、項目番号5、6のホームページのアクセス（ログイン）日時及びアクセスページログは、夫々ユーザがホームページ4をアクセスした際のアクセス記録データであり、リスト構造により履歴として記録される。項目番号7の最終ユーザ通知日時は、サーバ11からユーザへ通知を行った最終日時に関する情報

である。項目番号 5～7 の情報は、ユーザ側から登録されるものではなく、ユーザ登録後にサーバ 1 1 側で自動的にユーザデータとして登録、更新される情報である。

#### 【 0 0 3 1 】

項目番号 8 から 1 2 の住所、FAX 番号、ポケットベル番号、第二電子メールアドレス及び第三電子メールアドレス（携帯端末用）は、ステップ S 4 で登録される通知先情報であり、例えば少なくとも 1 つの通知先情報が登録されれば良い。

#### 【 0 0 3 2 】

項目番号 4 の個人情報及び項目番号 8～12 の通知先情報に対しては、サーバ 1 1 側からユーザへ通知を行う際の通知手段、即ち、通知タイミングや通知方法を決定する情報として登録可能である。通知手段として登録する情報に関しては、設定が「有り」として登録しておく。図 5 の場合、項目番号 4 の個人情報及び項目番号 9, 12 の通知先情報が、夫々通知手段として設定されている。

#### 【 0 0 3 3 】

次に、サーバ 1 1 側から、ホームページ 5 をアクセスしたことのあるユーザへの通知を行う、通知処理を図 6 と共に説明する。図 6 は、通知処理を説明するフローチャートである。同図に示す通知処理は、ホームページ提供者又はサーバシステムの管理者により設定されたスケジュールで、サーバ 1 1 により実行される。尚、スケジュールの設定については、図 7 と共に後述する。

#### 【 0 0 3 4 】

図 6 において、ステップ S 1 1 は、外部記憶装置 1 2 のデータベースをアクセスして、ユーザのアクセス記録データ等のアクセス情報を取得する。本実施例では、アクセス情報のうち、ユーザが最後にホームページ 4 をアクセスした最終アクセス日時を示す、項目番号 5 のホームページのアクセス（ログイン）日時を取得する。ステップ S 1 2 は、 $\{ ( \text{現在の日時} ) - ( \text{最終アクセス日時} ) \} \geq ( \text{所定期間} )$  であるか否かを判定し、判定結果が NO であると、処理は終了する。所定期間は、ホームページ提供者又はサーバシステム管理者により、図 7 と共に後述する如く設定される。

## 【 0 0 3 5 】

他方、ステップ S 1 2 の判定結果が Y E S であると、ステップ S 1 3 は、外部記憶装置 1 2 をアクセスして、更新履歴から、最終ログイン日時以降のページ更新情報、即ち、ユーザがアクセスしていないページ情報をピックアップして、ホームページ更新情報を取得する。尚、更新履歴については、図 9 と共に後述する。ステップ S 1 4 は、ホームページ更新情報に基いて、ユーザへ通知すべきコンテンツ（以下、通知コンテンツと言う）を作成する。通知コンテンツの作成については、図 1 0 と共に後述する。

## 【 0 0 3 6 】

ステップ S 1 5 は、外部記憶装置 1 2 のデータベースをアクセスして、ユーザが設定した通知手段によりユーザに通知コンテンツを通知する。本実施例では、図 5 の項目番号 4 の個人情報及び項目番号 9, 1 2 の通知先情報の通知手段が使用されるので、通知コンテンツがユーザの F A X 装置及び携帯端末用に通知される。ステップ S 1 6 は、外部記憶装置 1 2 のデータベースをアクセスして、最終通知日を更新してからデータベースに記録し、処理は終了する。

## 【 0 0 3 7 】

図 7 は、パラメータ設定処理を説明するフローチャートである。ホームページ提供者又はサーバシステム管理者が設定するパラメータとしては、（i）サーバ 1 1 にユーザの最終アクセス日時をチェックさせるスケジュール、即ち、サーバ 1 1 に最終アクセス日時のチェックを行わせるタイミングと、（i i）ユーザに通知コンテンツを通知する日時条件、即ち、どのくらいの期間ユーザからのアクセスがないと通知処理を行うかを示す通知タイミングとが含まれる。パラメータ（i），（i i）のいずれを設定する場合も、図 7 に示す設定処理をサーバ 1 1 により実行する。

## 【 0 0 3 8 】

図 7 において、ステップ S 2 1 は、サーバ 1 1 へのログインが可能であるか否かを判定し、判定結果が N O であると、処理は終了する。ステップ S 2 1 の判定結果が Y E S であると、ステップ S 2 2 は、上記パラメータ（i），（i i）の設定又は変更を行う。ステップ S 2 3 は、パラメータ（i），（i i）の設定を

確認して、設定通りであるか否かを判定し、判定結果がNOであると、処理はステップS22へ戻る。ステップS23の判定結果がYESであると、処理は終了する。ステップS23における確認は、例えばサーバ11の表示装置に設定されたパラメータ(i)，(ii)を表示し、ホームページ提供者又はサーバシステム管理者に確認を求める方法を採用可能である。

#### 【0039】

図8は、パラメータ設定処理を説明する図である。同図は、サーバ11にユーザの最終アクセス日時をチェックさせるスケジュール、即ち、パラメータ(i)を設定する際に、サーバ11の表示装置に表示される設定画面を示す。スケジュールの設定は、毎月X日といった形の指定、毎週Y曜日といった形の指定、Z月X日といった形の指定等で行える。又、時間の指定も行える。同図では、スケジュールが、毎月の10日、20日及び30日の9:00時に設定された場合を示す。

#### 【0040】

他方、ユーザに通知コンテンツを通知する日時条件、即ち、パラメータ(ii)を設定する際には、例えば{(現在の日時)-(最終アクセス日時)}がどのくらいの期間になったらユーザにコンテンツ通知を行うかを、日数で設定する。本実施例では、{(現在の日時)-(最終アクセス日時)} $\geq$ (所定期間)を判定するための所定期間が、7日に設定されている。

#### 【0041】

図9は、ホームページ提供者又はサーバシステム管理者が行う更新履歴管理処理を説明するフローチャートである。同図に示す更新履歴管理処理は、サーバ11により実行される。

#### 【0042】

図9において、ステップS31は、サーバ11へのログインが可能であるか否かを判定し、判定結果がNOであると、処理は終了する。ステップS31の判定結果がYESであると、ステップS32は、ホームページを変更して更新する。ステップS33は、外部記憶装置12に記憶されているページ更新履歴に、今回の変更分を記録する。ページ変更履歴に記録されるデータには、例えば変更者名



(ユーザID)、変更日時、変更内容等が含まれる。変更内容は、ホームページ提供者又はサーバシステム管理者が明示的に記録する必要があるが、変更者名(ユーザID)及び変更日時については、サーバ11側で自動的に設定するようにしても良い。

#### 【0043】

ステップS34は、ページ更新履歴を確認して、変更通りであるか否かを判定し、判定結果がNOであると、処理はステップS33へ戻る。ステップS34の判定結果がYESであると、処理は終了する。ステップS34における確認は、例えばサーバ11の表示装置にページ更新履歴を表示し、ホームページ提供者又はサーバシステム管理者に確認を求める方法を採用可能である。

#### 【0044】

図10は、通知コンテンツの作成を説明する図である。ここでは、説明の便宜上、ユーザAとユーザBとでホームページ4へのアクセス時期が異なり、ユーザA及びユーザBへの通知コンテンツがアクセス時期に応じて異なる場合を示す。同図中、数字は、ある月の日にちを示す。又、○印はホームページ4の更新日、□印はユーザAのホームページ4への最終アクセス日、△印はユーザBのホームページ4への最終アクセス日、◎印はサーバ11の最終アクセスチェック日を示す。

#### 【0045】

図10の場合、サーバ11による最終アクセスチェックにより、ユーザAへ通知される通知コンテンツは、18日及び22日の2日分のホームページ更新情報であり、ユーザBへ通知される通知コンテンツは、10日、14日、18日及び22日の4日分のホームページ更新情報である。このように、各ユーザA、Bのホームページ4へのアクセス状況に応じて、各ユーザA、Bへ通知される通知コンテンツが異なる。

#### 【0046】

新規ユーザ登録処理を行う際に、ユーザが興味のある分野や気になるキーワード等を設定しておけば、上記の如き場合に、ユーザに通知する通知コンテンツの情報量が異なるだけでなく、通知コンテンツの中身をも異なるようにすること

も可能である。これにより、各ユーザの好みに合わせて通知コンテンツを通知することが可能となり、不要なコンテンツの通知を防止し、通知コンテンツの情報量を最適化することも可能である。

## 【 0 0 4 7 】

上記実施例では、ホームページ提供者側でユーザへの通知を行っているが、通知を行うのはホームページ提供者に限定されない。例えば、複数のホームページ提供者と契約した通知代行業者が、ユーザのアクセス記録データ等の情報をホームページ提供者から受け取って、ホームページ提供者に代わってユーザへの通知を行うことも可能である。

## 【 0 0 4 8 】

尚、本発明は、以下に付記する発明をも包含するものである。

## 【 0 0 4 9 】

(付記 1) ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を基準として、所定条件が満足されると、該ユーザを該ホームページに誘導する情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行うステップを含むことを特徴とする、アクセス誘導方法。

## 【 0 0 5 0 】

(付記 2) 前記情報は、前記時点以降の前記ホームページの更新情報を含むことを特徴とする、(付記 1) 記載のアクセス誘導方法。

## 【 0 0 5 1 】

(付記 3) 前記所定条件は、前記時点からの所定時間の経過であることを特徴とする、(付記 1) 又は(付記 2) 記載のアクセス誘導方法。

## 【 0 0 5 2 】

(付記 4) 前記ユーザのユーザ情報の入力を促すステップを更に含み、前記通知は、該ユーザ情報に基づいて行われることを特徴とする、(付記 1) ～(付記 3) のいずれか記載のアクセス誘導方法。

## 【 0 0 5 3 】

(付記 5) 前記ユーザ情報は通知先情報を含み、前記通知は該通知先情報に応じた通信方法で行われることを特徴とする、(付記 4) 記載のアクセス誘導

方法。

【 0 0 5 4 】

(付記 6) ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を記録する第 1 の記録手段と、

該ユーザを該ホームページに誘導する情報を作成する作成手段と、

該時点基準として、所定条件が満足されると、該情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行う通知手段とを備えたことを特徴とする、アクセス誘導装置。

【 0 0 5 5 】

(付記 7) 前記作成手段は、前記時点以降の前記ホームページの更新情報を含む情報を作成することを特徴とする、(付記 6) 記載のアクセス誘導装置。

【 0 0 5 6 】

(付記 8) 前記所定条件は、前記時点からの所定時間の経過であることを特徴とする、(付記 6) 又は(付記 7) 記載のアクセス誘導装置。

【 0 0 5 7 】

(付記 9) 前記ユーザから入力されるユーザ情報を記録する第 2 の記録手段を更に備え、

前記通知手段は、該ユーザ情報に基いて通知を行うことを特徴とする、(付記 6) ～(付記 8) のいずれか記載のアクセス誘導装置。

【 0 0 5 8 】

(付記 1 0) 前記ユーザ情報は通知先情報を含み、前記通知手段は該通知先情報に応じた通信方法で通知を行うことを特徴とする、(付記 9) 記載のアクセス誘導装置。

【 0 0 5 9 】

(付記 1 1) コンピュータに、ユーザをホームページへ誘導する処理を行わせるプログラムを格納したコンピュータ読み取り可能な記憶媒体であって、

コンピュータに、ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を記録させる第 1 の記録手順と、

コンピュータに、該ユーザを該ホームページに誘導する情報を作成させる作成手順と、

コンピュータに、該時点基準として、所定条件が満足されると、該情報を含む通知を該ユーザに対して自動的に行わせる通知手順とを含むことを特徴とする、記憶媒体。

## 【 0 0 6 0 】

(付記 1 2) 前記作成手順は、コンピュータに、前記時点以降の前記ホームページの更新情報を含む情報を作成させることを特徴とする、(付記 1 1) 記載の記憶媒体。

## 【 0 0 6 1 】

(付記 1 3) 前記所定条件は、前記時点からの所定時間の経過であることを特徴とする、(付記 1 1) 又は(付記 1 2) 記載の記憶媒体。

## 【 0 0 6 2 】

(付記 1 4) コンピュータに、前記ユーザから入力されるユーザ情報を記録させる第 2 の記録手順を更に含み、

前記通知手順は、コンピュータに、該ユーザ情報に基いて通知を行わせることを特徴とする、(付記 1 1) ～ (付記 1 3) のいずれか記載の記憶媒体。

## 【 0 0 6 3 】

(付記 1 5) 前記ユーザ情報は通知先情報を含み、前記通知手段は、コンピュータに、該通知先情報に応じた通信方法で通知を行わせることを特徴とする、(付記 1 4) 記載の記憶媒体。

## 【 0 0 6 4 】

以上、本発明を実施例により説明したが、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、本発明の範囲内で種々の変形及び改良が可能であることは、言うまでもない。

## 【 0 0 6 5 】

## 【発明の効果】

本発明によれば、ホームページ提供者側からユーザに対してホームページ情報の再アクセスを効率的に誘導することができ、且つ、ユーザ側からはアクセスしたことのあるホームページに関する情報や更新内容等を意識せずに入手することができ、その結果ホームページ情報提供サービスを向上することが可能なアクセ

ス誘導方法及び装置並びに記憶媒体を実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の動作原理を説明するための図である。

【図 2】

本発明になるアクセス誘導装置の一実施例を示すブロック図である。

【図 3】

サーバの構成を示す機能ブロック図である。

【図 4】

新規ユーザ登録処理を説明するフローチャートである。

【図 5】

サーバシステムで管理されるユーザデータを説明する図である。

【図 6】

通知処理を説明するフローチャートである。

【図 7】

パラメータ設定処理を説明するフローチャートである。

【図 8】

パラメータ設定処理を説明する図である。

【図 9】

更新履歴管理処理を説明するフローチャートである。

【図 1 0】

通知コンテンツの作成を説明する図である。

【符号の説明】

- 1 情報端末
- 2 ネットワーク
- 3 サーバシステム
- 4 ホームページ
- 5 データベース
- 6 アクセス状況チェックプログラム

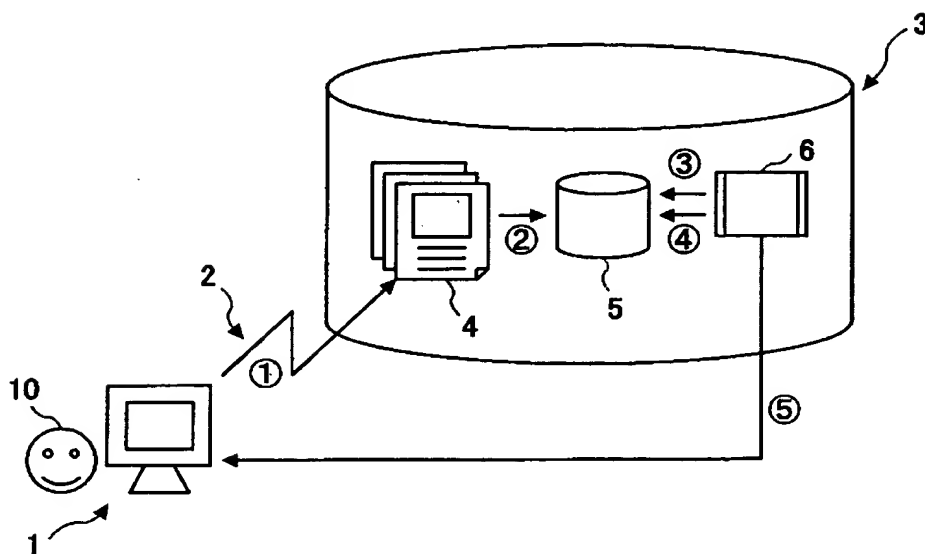
- 1 0 ユーザ
- 1 1 サーバ
- 1 2 外部記憶装置
- 1 5 クライアント装置

【書類名】

図面

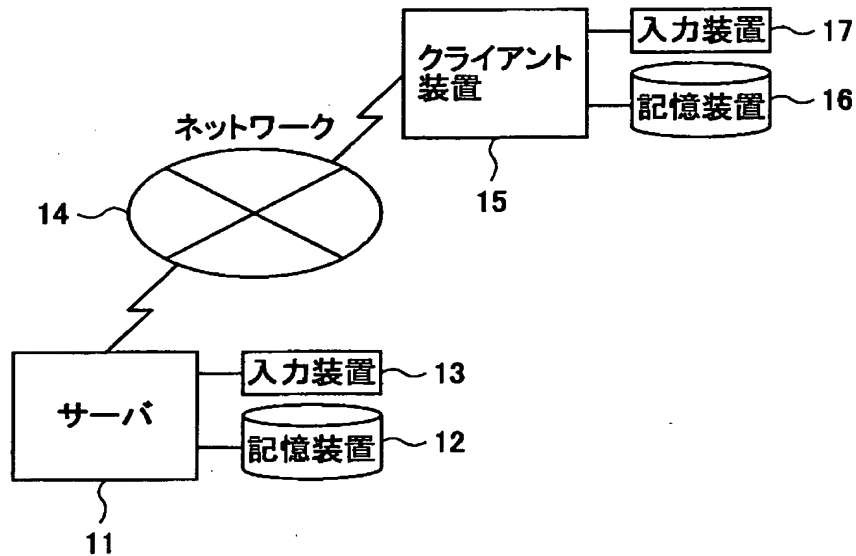
【図 1】

本発明の動作原理を説明するための図



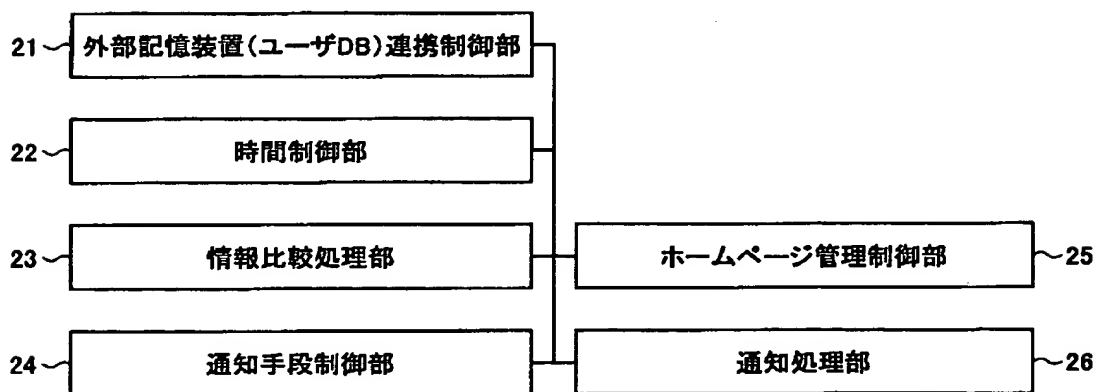
【図 2】

本発明になるアクセス誘導装置の一実施例を示すブロック図



【図 3】

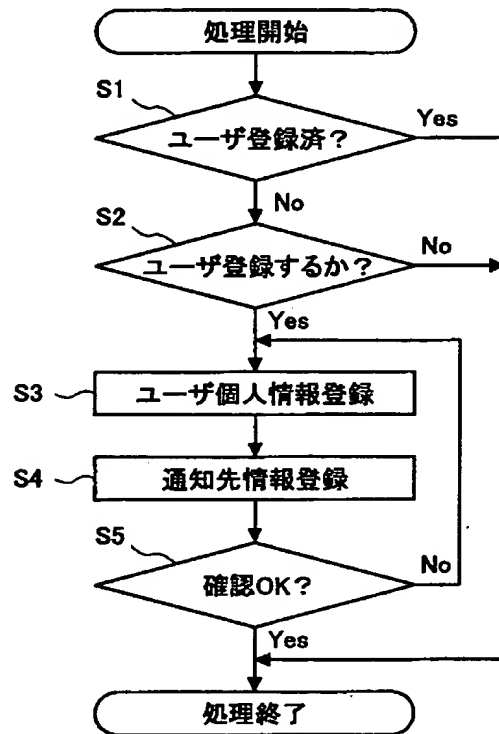
サーバの構成を示す機能ブロック図





【図 4】

新規ユーザ登録処理を説明するフローチャート



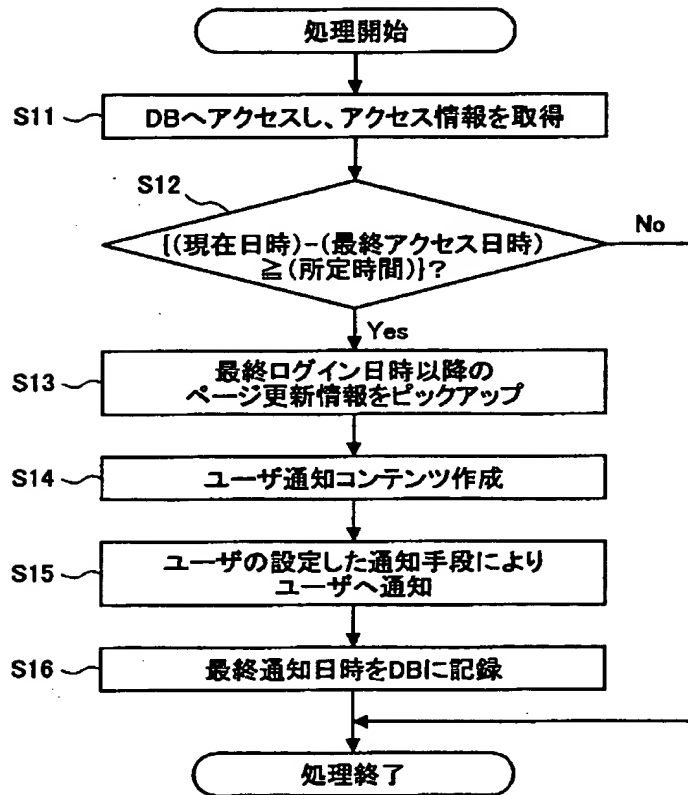
【図 5】

サーバシステムで管理されるユーザデータを説明する図

番号	項目	設定
1	氏名	
2	ユーザ名 (ID)	
3	パスワード	
4	電子メールアドレス	有
5	ホームページのアクセス (ログイン) 日時	
6	アクセスページログ	
7	最終ユーザ通知日時	
8	住所	
9	FAX番号	有
10	ポケットベル番号	
11	第二電子メールアドレス	
12	第三電子メールアドレス (携帯端末用)	有

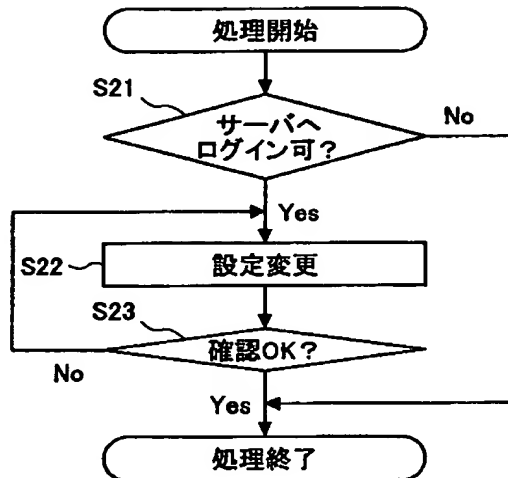
【図 6】

通知処理を説明するフローチャート



【図 7】

パラメータ設定処理を説明するフローチャート



【図 8】

パラメータ設定処理を説明する図

●毎月以下の日

☒ 10 ▼ 日    ☒ 20 ▼ 日    ☒ 30 ▼ 日

○毎週以下の曜日

☐ 月曜日    ☐ 火曜日    ☐ 水曜日    ☐ 木曜日  
☐ 金曜日    ☐ 土曜日    ☐ 日曜日

○特定の日    12 ▼ 月

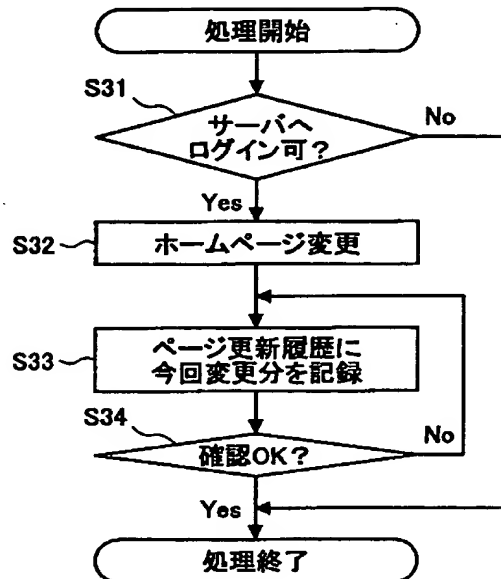
					1	2	
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	

☒ 以下の時間

☒ 9:00 ▼    ☐ : ▼    ☐ : ▼

【図 9】

更新履歴管理処理を説明するフローチャート



【図 1 0】

通知コンテンツの作成を説明する図

... 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 ...

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明はアクセス誘導方法及び装置並びに記憶媒体に関し、ホームページ提供者側からユーザに対してホームページ情報の再アクセスを効率的に誘導することができ、且つ、ユーザ側からはアクセスしたことのあるホームページに関する情報や更新内容等を意識せずに入手することができ、その結果ホームページ情報提供サービスを向上可能とすることを目的とする。

【解決手段】 ユーザがホームページを最後にアクセスした時点を基準として、所定条件が満足されると、ユーザをホームページに誘導する情報を含む通知をユーザに対して自動的に行うように構成する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日	1996年 3月26日
[変更理由]	住所変更
住 所	神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号
氏 名	富士通株式会社